

東京総合美容専門学校

2024年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京総合美容専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1.教育理念・目標

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが定められているか		4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか		3
理念・目的は、社会のニーズなどに対応し適宜見直されているか		4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか		4

①課題

3年前に本学園のミッション、ビジョン、バリューを明確に定めた。人事チームで浸透施策について検討しているがまだ具体的な取組に至っていない。

②改善方法

日常的に定期的にミッション、ビジョン、バリューがみられる掲示物を作成することや、全職員での交流会の場でワークショップの開催などが効果的かと考えている。

③特記事項

昨年後半より、本校 HP のスタッフ募集のページにミッション、ビジョン、バリューを掲載した。面接時に応募者から分かりやすいとの感想を聞くことができた。

2. 学校運営

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか		4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか		4
意思決定のシステムは確立されているか		4
人事処遇に関する制度は整備されているか		3
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか		3
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか		4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか		3

①課題

昨年、新理事長が就任し学園全体で大きな組織変更があった。多くの職員が本校と姉妹校の東京グローバルビジネス専門学校の2校の業務を担当することになった。目標が多岐に渡る者が多くなったが、情報共有が進み合理化される仕事も見られた。

学生募集及び学籍管理のシステムが新しくなったことで、旧システムとの連携や操作法の理解が必要となっている。

②改善方法

評価者と被評価者との間にリーダーが存在する者が多い。そのため目標設定や評価の際にリーダーにアシストしてもらうように制度を修正した。

新システムへの対応には、慣れるまで1年は必要だと推察される。

③特記事項

4月より国際ビューティーコースがスタートし留学生のクラスができる。姉妹校同様に事務職員が担任を兼務することになる。マルチタスクでの業務遂行ができる人材の採用・育成が重要である。

3. 教育活動

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか		4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか		4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか		4
授業評価を実施しているか		4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか		4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか		4
資格（免許）の指導体制は整っているか		4
資格・要件を満たした教員を確保しているか		4
研修会など教員の資質向上への取り組みを行っているか		3
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか		4
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか		4

①課題

昨年からのキャリアの授業の見直しを行ってきた。外部のコンサルによる『夢を叶える授業』は、学生達の積極性を育み質問力が飛躍的に向上した。次年度以降、本校の教員だけでの運営で同様の期待値まで引き上げられるかが課題となる。

②改善方法

昨年からの実施してきたスケジュールや資料は流用できることは安心材料となる。また、卒業生へのインタビューを基に進める探究型の授業スタイルであるので一定の効果も期待でき

る。ご登壇またはインタビューする卒業生の人選がキーとなりそう。

③特記事項

4月から電子黒板を導入するのを皮きりに教育のDX化を進めて行く。実技・学科共に従来の黒板による授業からだいぶ教えやすい授業になると期待している。

4. 学習成果

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか		4
資格・免許の合格率の向上が図られているか		4
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか		3

①課題

今まで卒業生の活躍の状況や相談できる公の窓口がなかった。また、ホームカミングデーのような卒業生との接点を持つイベントも行われていない。姉妹校で初めてホームカミングデーを開催したところ小規模ながらも好感触なイベントになったので本校も検討したい。

②改善方法

今年の卒業生から卒業生向けのSNSのアカウントを告知してフォローしてもらった。今後は、この卒業生アカウントに再就職支援の情報や活躍の様子をアップして行きたい。

③特記事項

美容業界で処遇改善の動きがみられている。初任給を美容室で24万円、エステティックの会社で28万円まで引き上げていただいている。できる限り学生にとって好待遇の会社に就職させてあげたい。

5.学生支援

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか		4
退学率の低減が図られているか		3
学生相談に関する体制を整備しているか		4
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか		4
学生の生活環境への支援は行われているか		4
課外活動に対する支援体制は整備されているか		3
保護者と適切に連携しているか		4
卒業生への支援体制はあるか		4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		—

①課題

入学者が減少傾向にある中、何とか退学者数を減らすためにベテランの教員を1年生の担任に配置した。一定の効果は出ているが、激減するまでの数字には至らなかった。昨年までと同様にメンタルエラーや金銭面での退学者が大半を占めている。

②改善方法

クラス内の友人関係や親子関係の悪化がメンタルエラーのきっかけになることが多いようだ。まずは教員達が少しでも早く察知して声をかけてあげることが重要となる。公的な奨学金と必要であれば独自の後援会による奨学金も利用してもらい金銭面の問題をクリアーさせてあげたい。

③特記事項

4月より美容室への再就職支援の取組をスタートさせる。数か月単位のインターンシップの後、サロンと卒業生の両者が合意すれば正社員として入社できる制度となる。現在約10社ほどが協力を合意していただいている。

6. 教育環境

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか		3
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか		3

①課題

現在、学科・実技共に黒板を利用した授業が基本となっている。先端の機材やシステムを導入することで、講義の分かりやすさ見やすさを推進して他校との差別化を図っていきたい。

②改善方法

まずは、電子黒板を必要数購入する。購入後の活用方法を検討して分かりやすい授業の進め方を確立していく。

③特記事項

学生の成績管理システムも新しい物に変更を予定している。変更による不利益が起こらないように注意して進めていきたい。

7. 学生募集と受入れ

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか		3
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか		4
入学選考基準は明確になっているか		4
入学選考は、適性に行われているか		4
学納金は、妥当な金額設定になっているか		4

①課題

ウェブサイトの募集ページやオープンキャンパスの運営方法や内容等が他校に劣っている部分があるという前提で見直しをする必要があると考えている。

②改善方法

ウェブサイトは、美容希望の高校生に響く人選や画質への変更、オープンキャンパス参加の交通費の支給や面談方法の創意工夫などを進めて行く。

③特記事項

独自の給付奨学金制度『スペシャルサポート制度』の選考方法は、地方学生が練習に来るこ

とが難しく不公平になるということから実技試験の実施を無くし筆記試験とプレゼンテーションのみで選考することに変更した。

8.財務

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか		4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか		4
財務情報開示の体制は整備されているか		3

①課題

日本の人口は少子化が進行し学生募集の苦戦が続くが、世界に目を転じると子供の数は増えている。

②改善方法

改にトータルビューティー科の中に『国際ビューティーコース』を新設し募集活動を行っている。4月から1クラス約40名の入学者を見込んでいる。

③特記事項

インボイス制度への対応業務は順調に進めることができた。学校事務費や出納業務においてペーパーレス、非現金化を推進することができた。

9.法令等の遵守

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか		4
個人情報保護に関する対策が取られているか		4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価結果を公表しているか		4

①課題

今まで本校と姉妹校はそれぞれ担当が分かれて少人数で学校事務を担当していた。その結果、退職や産休等による担当変更が起こると業務遂行に大きな弊害が出ていた。

②改善方法

昨年より、両校の業務をチーム単位で業務遂行する体制変更を行ったところ、課題がだいぶ

改善されて、業務効率も良くなってきている。

③特記事項

労働関係の法改正には、顧問弁護士や社会保険労務士に相談しながら就業規則の変更を行っている。

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		4
国際交流に取り組んでいるか		3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか		3

①課題

コロナ依頼、学校のホールや教室をお貸しする頻度が下がっていた。コロナが明けてからだいぶ改善の兆しが見えてきた。

②改善方法

総務チームを中心に施設の積極的な貸し出しが実現できるような取組ができてきている。具体的には、外部の紹介サイトへの掲載や積極的な営業活動などが挙げられる。

③特記事項

国際ビューティーコースを新設により日本語学校との交流が大きく増えてきている。